

■プロジェクト会議② 2014/6/16 テーブルワークまとめ 大風呂敷会議

		分類	概要
A 地域福祉の活動をひろげます	新しくつくる		学生のボランティアサークルをつくる→大学生に認知症サポーターになってもらい学生同士で教え合う制度をつくる
			老人同士で体操をするクラブをつくる(教え合う)→老人の居場所づくりにもなる
			老人が子供を見守るシステムをつくる(モデル地区)
			ボランティアポイント制度の拡充
			LINE等SNSを使ったコミュニケーションづくり
			誰でも参加できるイベントを実施する→繋がるきっかけづくりになる
			福祉会館に地縁コミュニティとのつながりをつくったらいい
		地域力に応じた仕組み(機会)づくり→老人の居場所づくりにもなる	
	既存のものを利用・拡充する		現在活動している人を使う
			基本的に福祉会館を拠点として施策展開しても良い
		子供と高齢者のつながりはある	
重要なこと、必要なものキーワード		考え方の共有	
		ボランティアポイント制度	
		自助・公助・互助	
		市のコミセンなし	
		キーマンが必要(地域の世話焼きおばさん)(家推)→市民同士でつくる子育てクラブがあると良い	
		どんな活動も重要だが1つの目標に向かうということがないと良い	
		地域で支えあうこと	
		地域に還元する	
課題等		地区社協つくって地域におりていくことが必要	
		目標がなくなってしまう どこまで行政が担うか? 税金	

		分類	概要
C 地域福祉の活動をつなぎ、大きな力に育てます	新しくつくる		1つの目標を地域でつくらせる。つくる為の組織をつくる→決める所から市民が動くが良い決める仕組み。地域ごとに競わせる
			やめちゃった人をつなげる会
			子供戻っておいで事業
	既存のものを利用・拡充する		市役所、夜間・土日もやってほしい
			古墳もっと周知を
			ぷらっとホーム知らない
			空き家の活用
	重要なこと、必要なものキーワード		浅田～蟹甲交通量多い、減らせ
			コミュニティ入りづらい、どう誘っていく?→つながりを絶やさない
			徘徊老人
		ちょっとでもつながる	
		世代交代	
		次の担い手	
		1つの目標	
課題等		認可保育園の充実	
		区制度→負担かけてる? →事務できる人派遣	
		男の人が(特に高齢者)肩書きないと表に出てこない→きっかけが必要	
		エコドームの労働環境	
		ブロック長(組織)の担い手	
		新しい人世代間で考えの違いが大きい(温度差)	
		担当係からの予算要求に応えるだけだが	
		戸建はいいがマンションの人達のつながりが薄い	
		独り暮らしの人、夫婦だけの人をつながりどうしたら?	
		市の事業どうしたら知れるか?	
		福祉会館よく知らない	
		議員の力による	
		道が狭い、車イスでは不便	
	マダニ		

分類	概要
3.2.1 福祉教育の推進	福祉実践教室
	全小中学校を指定とその内容
	当事者やボランティアが講師
	共助の拡大
	自助の欠如
	世代毎の目線
	参加機会の拡大
	体験型講習会（自分の力を伸ばす）
3.2.2 地域福祉の推進 主体となる地域 自治組織への支 援	自治組織検討（区別制度廃止）
	地域福祉範囲の検討
	区・自治会・家族
	公民館に人員配置できる補助金を！
	お金の流れを区に一括しない（自由度を上げる）
	市のコミセンなし
	組織支援
3.2.3 人材育成・人材 派遣	地域のものをどう使いやすくするのか
	区長が全て代表
	地域格差区長・事務員
	福祉会館のあり方
3.2.3 人材育成・人材 派遣	民生委員の仕事を分ける
	家推のイベントで人材発掘・育成
	家推、老人会、婦人会、PTA、子供会とのつながりがある
	イクメンの育成支援
	世代間交流が担い手にもつながる
3.2.4 活動拠点確保へ の支援	民間の施設を活用
	民間拠点の情報提供
	喫茶店で安否確認
	地域担当として職員の公民館への派遣
3.2.5 地域福祉活動へ の資金的支援	市は事業補助・組織補助があっても良いのでは？
	逆提案型の補助か助成か、ぼんやりしたものだと理解が得づらい
	業者委託から地域委託へ
	市民と市民のマッチングファンド 地域型クラウドファンディング

B 地域福祉の活動をささえます